

LGBT学生服開発

多様性認める環境を

LGBT(性的少数者)を意識した学生服づくりを、岡山県内のメーカー各社が進めている。国が教育現場での配慮を求め、採用する学校側の関心も高まってきた。各社は当事者の意見を反映させながら、男女共通デザインや女子ズボンなどの商品提案している。(山本友志) 11面関連



岡山県内メーカー 要望反映し提案

菅公学生服(岡山市北区駅元町)は2016年の展示会で「ポーターレスユニホーム」を発表した。提案するのは、男女共通の型を使ったブレザーやシャツ、女子ズボンなど。性に加え、体形や宗教の多様性も考慮しているのが特徴で、体のラインを目立たなくしたり、肌の露出を抑えたりといった工夫を施している。同社は女子ズボンを20年以上も前から扱ってきた。当初の狙いは寒さ対策で、北海道

共通型や女子ズボン

や東北を中心に全国約400の高校、約200の中学校で採用されている。だが、ここ数年はLGBTへの配慮を理由に導入する例が見られるようになったという。現在は男女共通デザイン

文部科学省は15年、LGBTの児童生徒の学校生活にきつめ細かく対応するよう通知を出した。配慮は徐々に広がりつつあり、東京都世田谷区や中野区では今春から、全区立で男女関係なくズボンとスカートを選べるようになる。明石スクールユニフォームカンパニー(倉敷市児島田の口)は17年に「レインボーサポート」と名付けたプロジェクトを開始。当事者団体が開く講座で学んだ社員を各支店に配置するなど、要望に応じた制服を提案できる態勢を整えている。同社は「展示会などを通じて啓発活動にも取り組み、多様性が認められる環境を整えていきたい」とす

トンボ(同厚生町)も16年の展示会から「ジェンゲールズ制服」を提案する。関西の公立中高から相談があったの



ズボンに合わせやすいよう、女子のジャケットの着丈を長めにした明石スクールユニフォームカンパニーのデザイン案

トンボが提案するブレザーの一例。ボタンと穴を両側に配置することで「右前」「左前」を自由に選べるようにしている

「当たり前」の選択肢に 当事者や識者歓迎



G.I.D.学会理事長を務める中塚教授はメーカーの役割に期待する

メーカーの取り組みを当事者や識者はどう受け止めているのだろうか。LGBTの自助団体・プラウド岡山で活動する団体職員の中村悠さん(20代、仮名)は「ハード面を整えられるのはメーカーだけ。社会的責任として広げてほしい」と話

「女性」として生まれながら、物心がついたころから違和感があり、私生活で進学したりといった例を少なくなっている。中塚教授によると、性別への違和感は思春期前

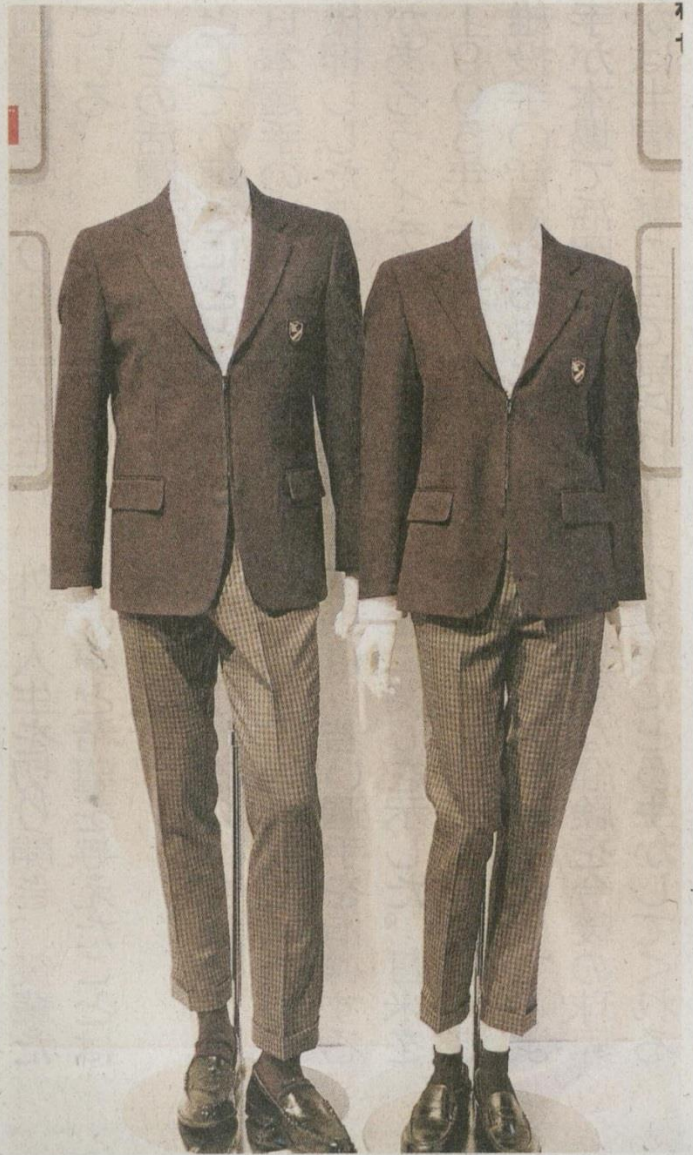
「電車の窓や鏡に映るスカート姿を見たくなくなると、心と体の性が一致しないトランスジェンダーの割合は1.0%。1学年が40人学級で3クラスの場

ただ、女子ズボンについては「現役だったとしても今の状況では選ばないと思う」。学校現場でも目立ってしまうから各地の先進事例を積極的に発信し、現場の意識を変えてほしい。ソフト面と

の両輪で前に進み、一つ(山本友志)

学生服 LGBTに配慮

LGBTに配慮した学生服。ファスナー式で男女共通のデザインにした



マネキンが着ているブレザーはファスナー式。「男性の右前」「女性の左前」といった衣料の性差をなくそうと作られた学生服だ。

デザインは男女共通で、ズボンを採用した。開発した菅公学生服（岡山市北区駅元町）の尾崎茂社長は「メーカーとして、全ての子ども

岡山のメーカー

たちが心身とも快適に過ごせる制服を提供したい」と話す。

学生服製造で全国シェアの約7割を占める岡山県。LGBT（性的少数者）への配慮という新たな課題に、メーカー各社の模索が始まっている。（山本友志）

7面に関連記事